

参考資料 ①上位計画

1 第3次下関市総合計画

2025年（令和7年）3月に策定された第3次下関市総合計画において、下関駅周辺エリアに関する主な計画については以下のように挙げられている。

1-1 基本構想（抜粋）

（1）まちづくりの基本構想

『可能性を築くまち』を基本理念として定め、下関というまちを捉え直し、住みやすい、住み続けたい、下関で挑戦したいと思われるまちを目指すため、「暮らし」「コミュニティ」「経済」「環境」の4つにテーマが展開されている。



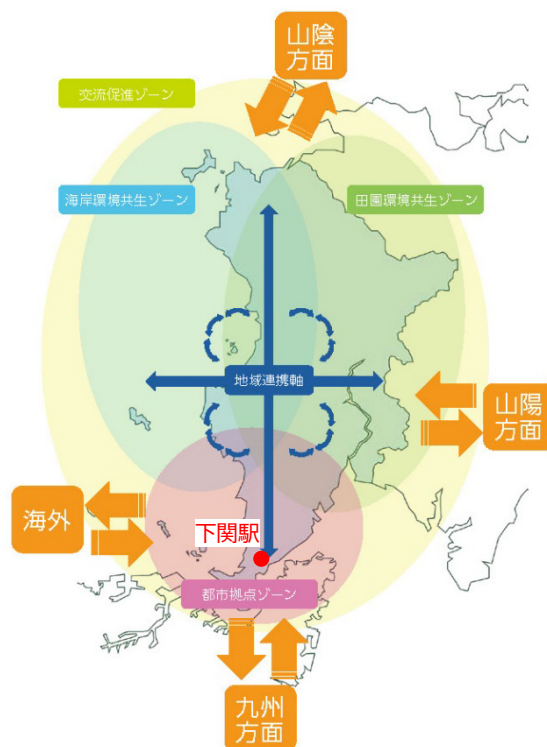
第3次下関市総合計画より引用

（2）地域別まちづくりの考え方（案）

地域の特性や課題等を踏まえ、都市拠点ゾーン・環境共生ゾーン・交流促進ゾーンの3つのゾーンと地域連携軸が設定されている。

なお、下関駅周辺エリアは、下関市の経済産業の中心として高度な都市的サービスを担い、行きたい、住みたい、働きたい、チャレンジしたいと感じる、魅力と活力に満ちあふれ、まちの顔となる市街地機能を有する都市拠点ゾーンであるとともに、地域の多様な人材・資源を生かしたまちづくりを推進し、市全体の価値や魅力を向上させることにより、市街さらには海外との他分野における交流を展開する交流促進ゾーンに該当している。

▼地域別まちづくりの考え方（案）（イメージ）



第3次下関市総合計画より引用

1-2 基本計画（第5章 都市基盤・生活基盤より抜粋）

（1）方向性（抜粋）

- 本市が「住む人、訪れる人に選ばれるまち」であるためには、都市の魅力を高めることが重要
→快適で利便性の高い暮らしや活力を支える都市機能・日常生活サービスを維持し、充実させる必要があります。
- 人口減少下においてもそれを実現し、持続可能なものとするために、都市機能の効率的な配置や集中を促進し、道路や公園、情報通信等の都市機能の強化を図ります。
- まちづくりと連携した鉄道、バス等の公共交通の利便性を向上させ、福祉サービス等地域の輸送資源を総動員することで、総合的で持続可能な交通体系の構築を目指します。
- 少子高齢化による人口減少が加速する中で、市民生活において、直面する様々な課題を行政や民間事業者等が持つ、多様なデータやサービス、IoT・AI等のデジタル技術を活用して、解決を図り、市民誰もが安心して幸せな生活を送ることができる持続可能なまちの実現を目指します。

（2）取組の方向（抜粋）

① 持続可能な都市の形成

都市拠点には、居住・業務・観光等の多様な機能の誘導・集積を図る安全で交通利便性の高い地域への居住を誘導します。

多様な交通体系による利便性の向上を図る等、総合的で持続可能な都市空間を形成することにより、人口減少下においても持続可能なまちづくりを進めます。

【主な取組】

- 都市計画マスタープランの推進
- 立地適正化計画の推進
- 地域特性を活かしたまちづくりの推進
- 産業・物流機能の導入促進

② 市街地の魅力向上

（a）市街地の活性化

都市計画の運用により地域の性格を明確化し、健全な市街地の形成を図ります。官民連携の取組を進め、支援を行いながら、市街地の利便性向上に資する既存の都市施設を最大限活用しつつ、市街地の活性化に資する事業を展開していきます。また、駅を中心とした周辺市街地のまちづくりや交通結節点整備を進め、ゆとりと潤いのある、にぎわいあふれる都市空間の形成に努めます。

さらに、グリーンインフラとして多様な機能を有する都市の緑地や公園の確保、都市におけるエネルギーの有効活用等に取り組みます。

また、社会経済情勢の変化にともなう都市政策に対する多様なニーズに対応するべく、市民活動、都市活動等におけるデータ、新技術の活用を推進します。

【主な取組】

- ゆとりとにぎわいのある中心市街地の整備
- 駅を中心としたまちづくりの推進
- 都市再生推進法人等との官民連携まちづくりの推進

(b) 居心地がよく快適で安全・安心な市街地の形成

車中心から人中心の空間へと転換を図るため、居心地良く歩きたくなるまちづくり、自転車等の環境整備、渋滞対策を推進します。

老朽建築物が多い密集市街地においては、防災対策等の改善を図ります。

【主な取組】

- まちなか居住の促進
- 中心市街地の渋滞対策
- 居心地が良く歩きたくなるまちづくりの推進

2 下関海峡エリアビジョン

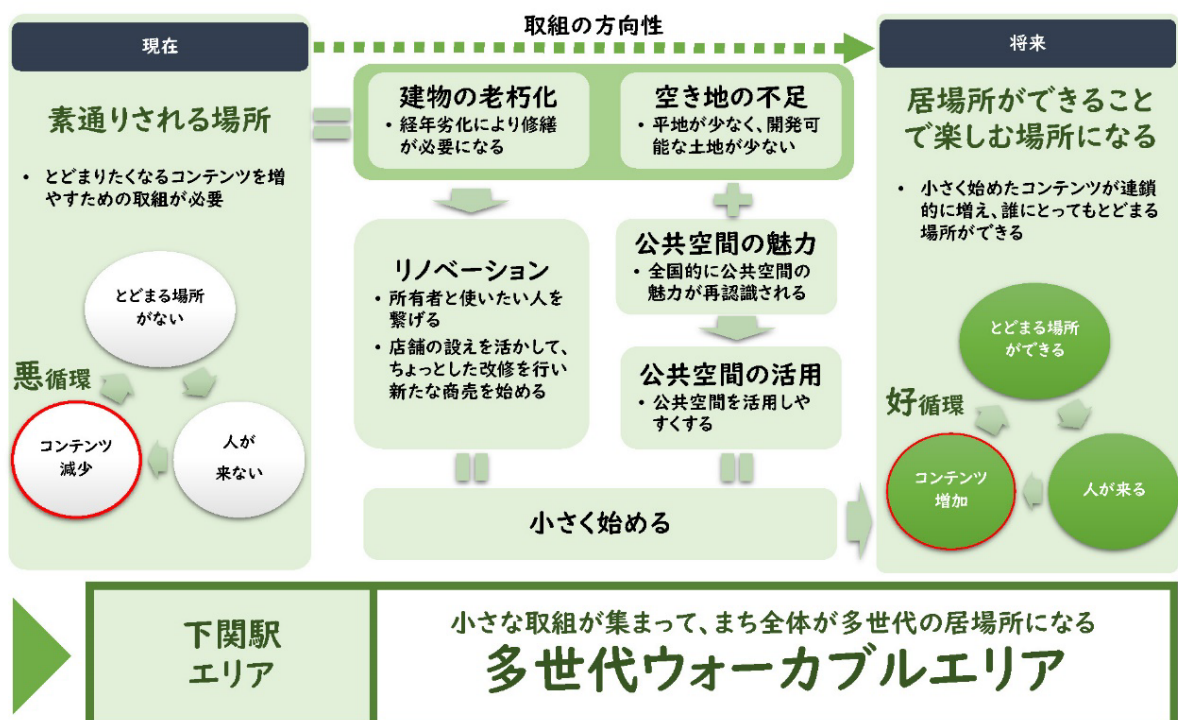
下関海峡エリアビジョンは、海峡エリアの目指すべき将来像やまちづくりの考え方（案）を示すもので、「市民」、「事業者」、「行政」などがその将来像と方向性を共有するための羅針盤として位置付けるものとなっている。

下関駅エリア、あるかぼーと・唐戸エリア、火の山・壇之浦エリアの3つに分類し、各々の将来の方向性の検討を行っている。

全体ビジョン



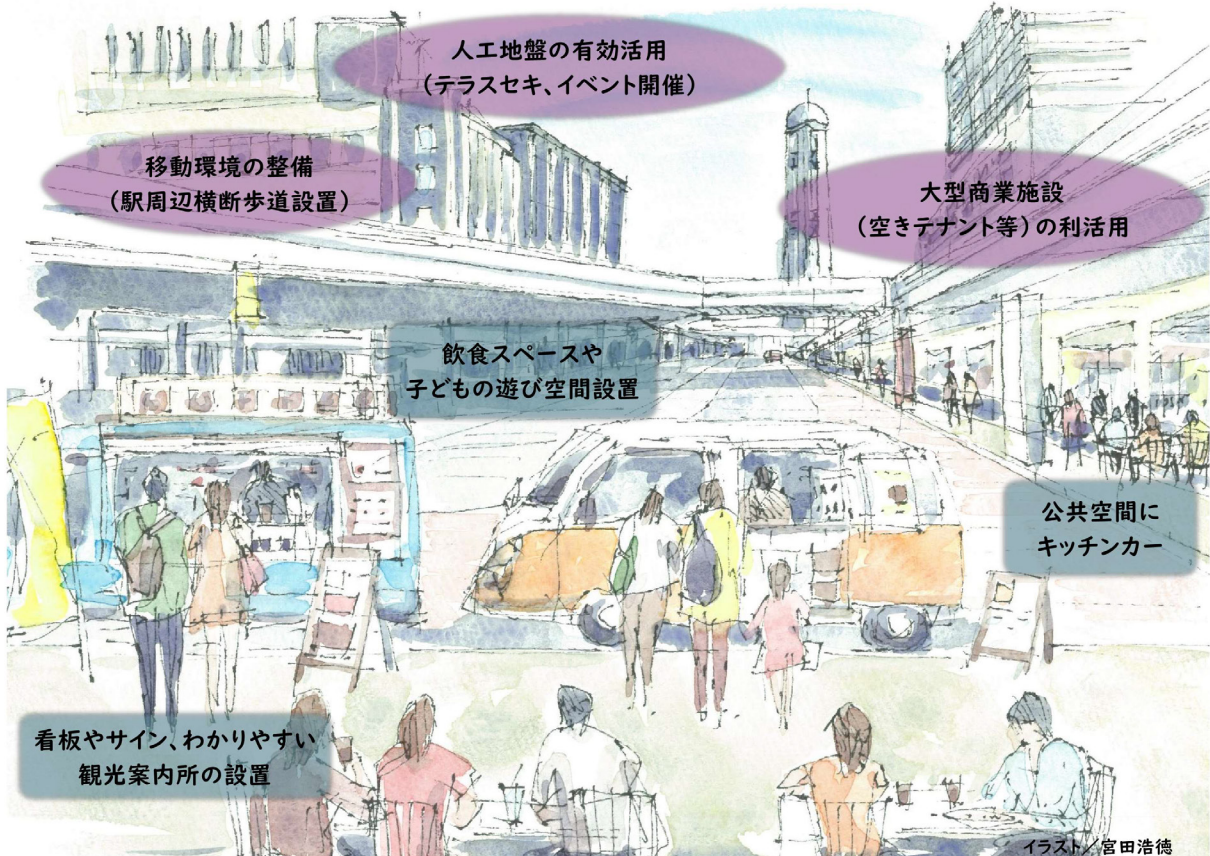
下関駅エリアのまちの変化に合わせて、新たなコンテンツを次々と生み出す取組が必要となり、まち全体が居場所となる魅力あるエリアを目指します。



下関駅エリアの将来イメージ(下関駅前)

市民

行政

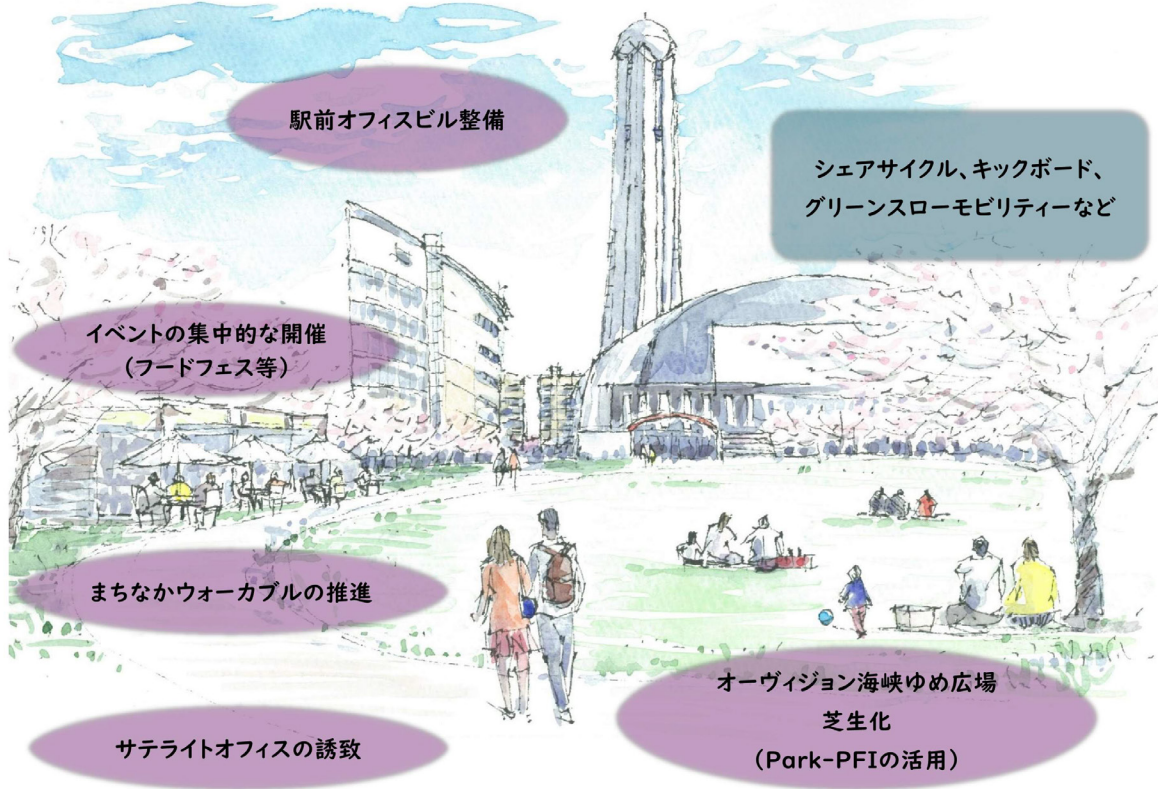


16

下関駅エリアの将来イメージ(海峡ゆめ広場周辺)

市民

行政



イラスト/宮田浩徳 18

下関駅エリアの将来イメージ(グリーンモール)

市民

行政



イラスト/宮田浩徳 17

下関駅エリアの将来イメージ(茶山通り)

市民

行政

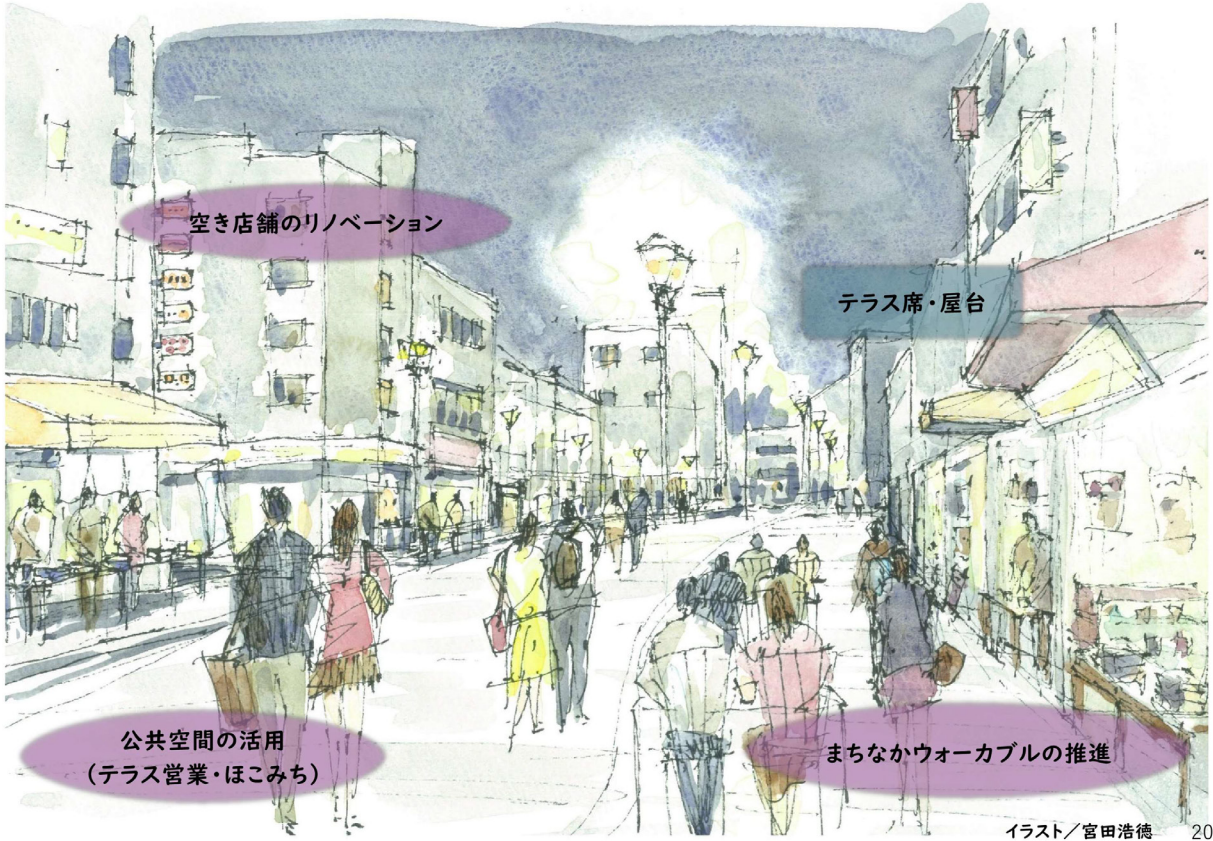


イラスト/宮田浩徳 19

下関駅エリアの将来イメージ(豊前田商店街周辺)

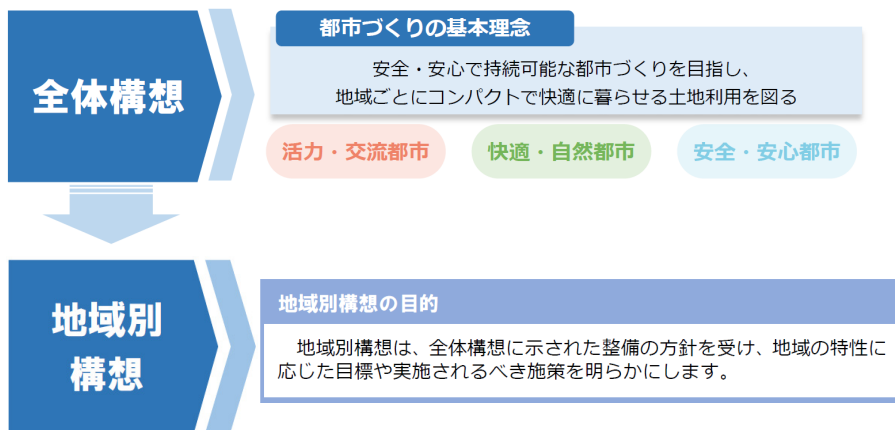
市民

行政

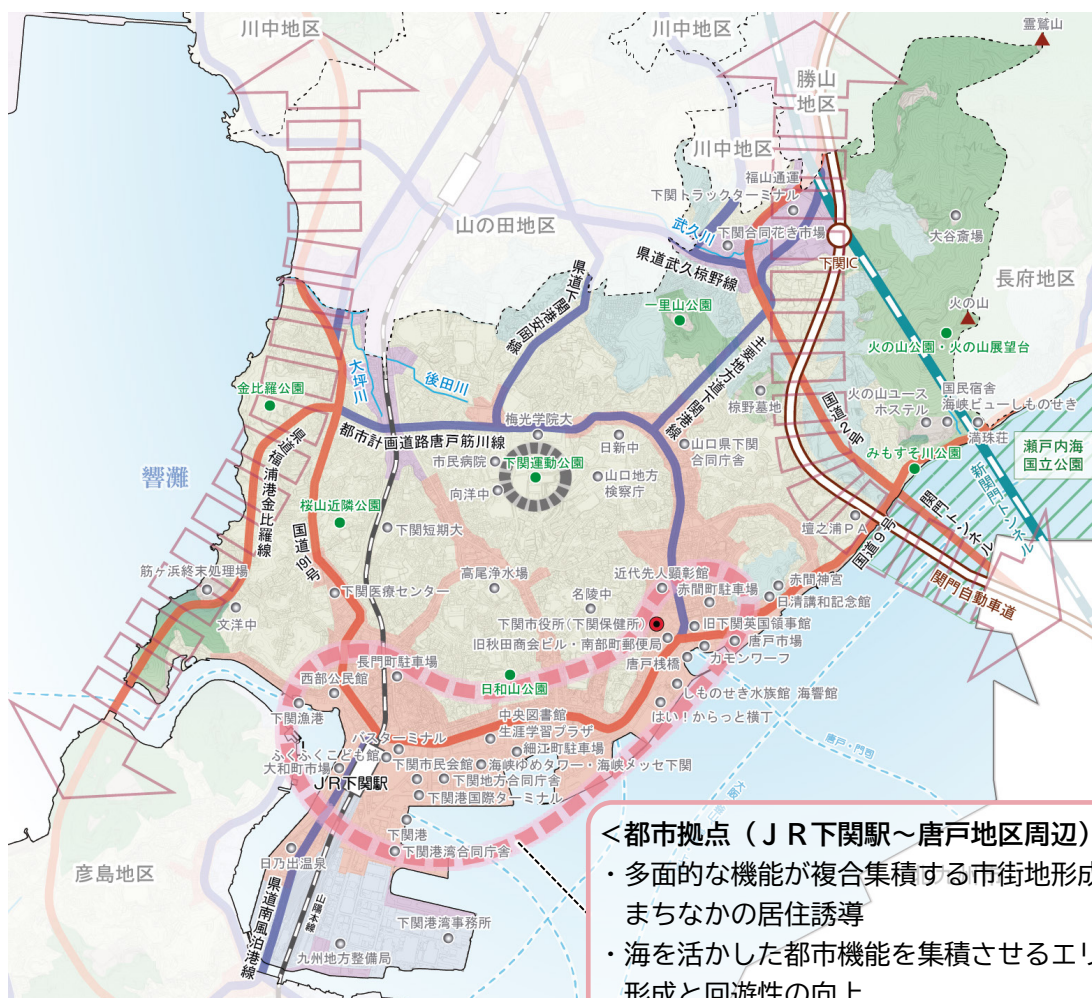


3 下関市都市計画マスタープラン

下関市都市計画マスタープラン（2022年（令和4年）3月策定）においては、全体構想である都市づくりの基本理念をもとに、地域別構想として地域の特性に応じた目標や実施されるべき施策が挙げられている。



3-1 地域別構想（市街地中心地域 中心地区）



【主要施策（抜粋）】**土地利用・市街地整備（拠点形成）**

- J R 下関駅から唐戸地区周辺にかけての市街地は、本市の中心的な役割を担う都市拠点として、既存の都市機能を活かし、多面的な機能が複合集積する市街地形成やまちなか居住の誘導を図ります。

都市施設整備（交通体系整備等）**<道路>**

- 都市拠点に相応しい交通基盤の充実を図ります。
- 安全で安心な歩いて暮らせる都市環境の創出を図ります。

<公共交通>

- 広域交通の拠点として公共交通の利便性向上と利用促進を図ります。
- J R 下関駅周辺は、主要な交通結節点として、各施設を結ぶ歩行者通路等の確保・バリアフリー化などの整備を図るなど、都市拠点に相応しい駅周辺整備と交通結節機能の充実を図ります。
- J R 下関駅は、サイクルアンドライドやキスアンドライドなどによる利用促進に努めます。

環境保全・環境形成・景観形成

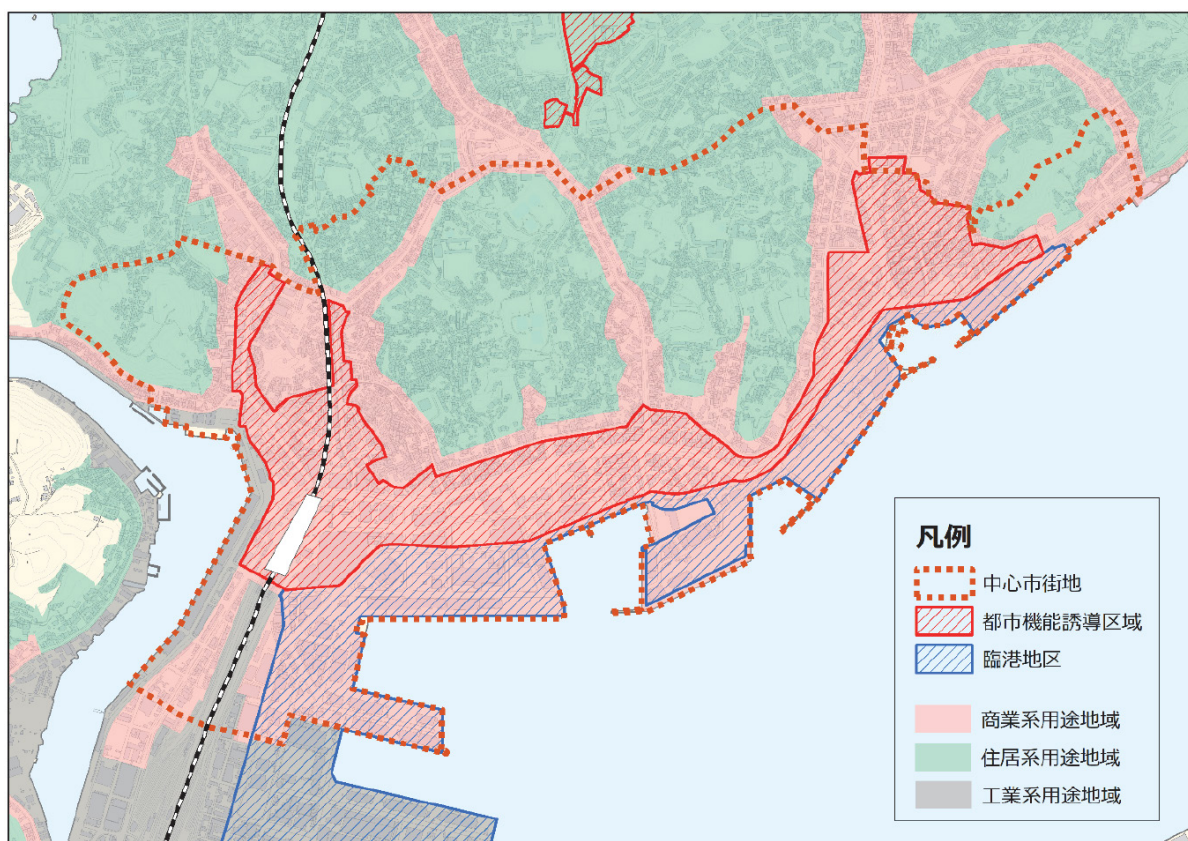
- 関門景観を臨むみなとまちとして、良好な市街地景観の形成を図ります。
- 都市拠点に相応しい景観形成及びその他周辺の良好なまちなみ景観の形成を図ります。

4 下関市立地適正化計画

人口減少・少子高齢化が進展しても、一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、日常生活サービスや地域コミュニティが持続的に確保されるよう、居住機能や都市機能の誘導に向けた考え方を示すことや、頻発、甚大化する自然災害への対応として都市防災に関する機能の確保を目的に策定。令和22年（2040年）の実現を目指し、社会経済状況の変化や、達成状況に合わせ必要に応じて見直しが行われる。

下関駅周辺エリアの多くの範囲が都市機能誘導区域に指定されている。

▼下関駅周辺エリアの区域図



● 都市機能誘導区域

商業、医療・福祉施設等の日常生活を送る上で必要となる都市機能を都市の中心拠点等に誘導・集約することにより、これら各種サービスの効率的な提供を図る区域

● 居住誘導区域

人口減少の中にあっても、一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるように居住

